

◆市町の評価に関して◆

【調査項目】

①検診対象者、②受診者の情報管理、③要精検率の把握、④精検受診の有無の把握と受診勧奨、⑤精密検査結果の把握、⑥検診機関の委託に関する内容の36項目を調査対象としています。

また、肺がん検診の精度の指標「精検受診率」「受診率」「要精検率」「肺がん発見率」「陽性反応適中度」の5項目についても調査を行いました。

【評価方法】

市町から提出のあった調査項目への回答に基づいて、次の方法で評価しています。

- A・・・「基準」をすべて満たしている
- B・・・「基準」を一部満たしていない（1～6項目満たしていない）
- C・・・「基準」を相当程度満たしていない（7～12項目満たしていない）
- D・・・「基準」を大きく逸脱している（13～18項目満たしていない）
- E・・・「基準」をさらに大きく逸脱している（19～24項目満たしていない）
- F・・・「基準」から極めて大きく逸脱している（25項目以上満たしていない）
- Z・・・回答がない

【評価結果】（詳細な結果は、ホームページの表1を参照）

*平成22年度実施分の市町別の評価は、下記のとおりです。

本調査は、平成23年度から開始し、2年目の調査です。昨年度の調査結果や追加調査を実施した経緯等を踏まえ、「集団検診」と「個別検診」に分けて調査するなど、一部見直しを行いました。

また、調査を開始したことにより、市町や関係機関に対し精度管理向上の意識付けを行うことができ、平成24年度からは、基準を満たすための見直し等が行われ、評価があがる機関等が見受けられました。

＊肺がん検診の精度の5指標について

「精検受診率」は、「要精密検査」とされた方のうち、実際に精密検査を受けられた方の割合で、精度評価の最も重要な指標と位置付けられています。100%に近い方が望ましい指標で、目標値は90%、許容値は70%とされています。精検受診率が70%を下回ることは望ましくないとされていますが、石川県では下回る市町は、ありませんでした。

肺がん検診精度管理調査結果(平成22年度 市町実施分)

| | 市町名 | 評価 | | 備考 |
|----|-------|----|----|--|
| | | 集団 | 個別 | |
| 1 | 金沢市 | C | B | |
| 2 | 七尾市 | A | | |
| 3 | 小松市 | C | | |
| 4 | 輪島市 | B | | |
| 5 | 珠洲市 | B | | |
| 6 | 加賀市 | B | | |
| 7 | 羽咋市 | B | | |
| 8 | かほく市 | B | | |
| 9 | 白山市 | B | | |
| 10 | 能美市 | B | | 平成25年度からは、評価「A」の予定(委託検診機関からの仕様書提出、精度管理項目の明記について基準を満たす予定) |
| 11 | 野々市市 | A | B | |
| 12 | 川北町 | B | | |
| 13 | 津幡町 | B | B | |
| 14 | 内灘町 | B | B | |
| 15 | 志賀町 | A | | |
| 16 | 宝達志水町 | B | | |
| 17 | 中能登町 | B | | 平成24年度からは、評価「A」(委託検診機関からの仕様書提出、精度管理項目の明記について基準を満たしている) |
| 18 | 穴水町 | B | | |
| 19 | 能登町 | B | | |
| | 計 | 19 | 4 | |

| 評価 | 集団 (市町数) | 個別 (市町数) |
|----|-------------|-------------|
| A | 3 | 0 |
| B | 14 | 4 |
| C | 2 | 0 |

評価基準

- A: 「基準」をすべて満たしている
- B: 「基準」を一部満たしていない(1~6項目満たしていない)
- C: 「基準」を相当程度満たしていない(7~12項目満たしていない)
- D: 「基準」を大きく逸脱している(13~18項目満たしていない)
- E: 「基準」をさらに大きく逸脱している(19~24項目満たしていない)
- F: 「基準」から極めて大きく逸脱している(25項目以上満たしていない)
- Z: 回答がない

「受診率」は、肺がん検診の対象の方のうち受診された方の割合です。対象者の算出方法は市町によっても相違があるため、厳密には正確な値でないこともあります。なるべく高いことが望ましいとされています。

「要精検率」は、受診された方のうち精密検査が必要とされた方の割合で、許容値は3%以下(受診者100人中、要精検が3人以下)とされています。

「肺がん発見率」は、受診された方のうち肺がんが発見された方の割合で、高ければ高い方が望ましい指標です。許容値は0.03%以上とされています。

「陽性反応適中度」は、検診で「要精密検査」とされた方のうち、実際に肺がんがあった方の割合で、許容値は1.3%以上とされています。

いくつかの指標で、許容値を下回った市町がありました。「精検受診率」は許容値を下回ることは良くないとされていますが、それ以外の指標は、人口構成による違いや継続受診者の比率、喫煙者の比率などによっても大きな影響を受けるため、下回れば必ず問題があるとは言えません。また、「肺がん発見率」「陽性反応適中度」は、小さな自治体では年度による変動が大きいとされています。